2014 年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	人文科学研究所
評価基準２	教育研究組織
点検・評価項目(1)	2-1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
評価の視点	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
点検・評価項目(2)	2-2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ　点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

2-1	人文科学に関する学術の研究およびこれに関する諸事業を行い、研究成果の社会へ還元することを目的に、平成 2 年文学部内に設置された機関であり、この理念は本学のまた文学部のそれぞれの理念・目的に適合する。 研究員体制においては、文学部以外の本学専任教員(兼担研究員)、本学の専任教員以外(兼任研究員)、国外の大学および研究機関所属者(客員研究員)が制度化されており、14 年度の兼担・兼任研究員は 50 名にぼる。ただ、派遣に予算措置が伴う客員研究員については運用が難しく、不在状況が続いている。
2-2	研究班の継続変更等、研究組織に関わる事項は、「大東文化大学人文科学研究所規程」及び「人文科学研究所業務運営に関する確認・合意事項」等に従って、所長と各研究班代表者で構成する研究部会、さらに学部長・学科長・所長等で構成する運営委員会で審議し、教授会での協議ないし報告を行っており、研究員はもとより文学部構成員間で検証できる体制が健全に機能している。

【効果が上がっている事項】

2-1	12 年度から外部資金獲得の申請を行える研究班体制への改善を目標に、ゲストスピーカ―を招いた座談会の開催や、予算配分の改革を実施し、研究班の中から、科学研究費補助金申請を 12 年度に 1 件、13 年度に 2 件行うにいたった。
2-2	

【改善すべき事項】

2-1	
2-2	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

「大東文化大学人文科学研究所規程」、「人文科学研究所業務運営に関する確認・合意事項」、「人文科学研究所所報」、研究部会議事録、運営委員会議事録、改善方策経過報告書

《指標データ》

なし

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～2018)			→					
			→					
			→					
14 年度目標			→					
			→					
			→					